

平成 23 年度

相 楽 ぶ る さ と 塾

(第 1 8 期)

活 動 報 告 書



相楽郡広域事務組合



CONTENTS

ごあいさつ	1
塾生意見発表	2
活動概要	2 1
開催状況	2 2
塾の開設計画	2 4
修了生名簿	2 6



相楽郡広域事務組合

代表理事 木村 要

ごあいさつ

塾生の皆様には、それぞれお仕事に従事されながら、あるいはご家庭の主婦として、さらには、各地域での役職なども兼ねながら、ことのほかお忙しい方々ばかりではありますが、開講式以来、本日まで9回にわたる講義、相楽圏域内の視察研修に終始熱心にご参加を賜り、誠にお疲れ様でした。

さて、ご承知のとおり、この「相楽ふるさと塾」は、ふるさと市町村圏振興事業基金7億円の運用益をもって運営している事業で、相楽圏域内の文化振興やまちおこしなど、広域的なソフト事業のなかの中心的な事業でもあります。本年度で18回目を迎え、この課程を終えられた塾生は、延べ333人となりました。これらの方々の中には、各種イベントへの参画やボランティアへの参加など、積極的に地域に根ざした活動をされている方が多数おられます。

塾生の皆様には、この「相楽ふるさと塾」で会得された知識、情報、あるいは、人脈を生かし、地元や職場、活動場所に持ち帰っていただき、力強いリーダーとして相楽圏域の発展に寄与していただきますようお願い申し上げます。

塾生意見発表

大和文化は木津川の贈り物

木津川市 茨木 基晴

恭仁京、笠置寺、蟹満寺、神童寺、泉橋寺、海住山寺等と並べるだけで目を見張るような観光資源、歴史的文化的資産がある。歴史の重み、文化の香りにこれほどまでに恵まれた木津川流域一帯がなぜ知られていないのか、私は不思議でならない。

要するに、そういう歴史的文化的ないわれが知られていないからであろう。それにしても自分も含めて知らなすぎた。今回のふるさと塾で知ることができ、それぞれ各地域ごとに20年・30年と、こつこつと、古地図、古文書等を探し、冊子で発表されている方、300項あまりの本を自費出版される方達と話ができ親交が持て、最高です。自分はこの地で6年余りの者ですが、自分の思い、考えを話し賛同を得ることができ、自信を持てると同時に難しさも知りました。

簡単に申し上げると古地図を写し、古地図、古文書、その古老方の話をきいて修正し、又修正をくりかえして、らしい地図を描いていくだけのことです。しかしこれが出来上がると今までにない観光の資源としては、観光客、地域の人のつながりを生み、古文を読み、意見を発表しながら完成していく地図、いやお互いの絆が、それも万葉歌を研究している学生達の現地での勉強、研究(この地は幸いにも、国立国会図書館関西館、京都府立山城郷土資料館、それぞれの地域の図書館)には最適であり毎年くりかえし来てくれると思われる。この地で誰と話しかけても万葉歌、お茶文化の香りが感じられるような返答ができるように行政は勉強会をきめ細かくやってほしい。木津川の贈り物としては田辺、八幡、城陽、宇治共々新しい観光資源としてきっかけを作ってほしい。

ボランティア・ガイドのバックグラウンドの知識として

木津川市 玄番 進

木津川市の加茂地区で、NPOのガイドクラブに所属しボランティア・ガイドをしています。

この塾に参加することで、ボランティア・ガイドに何か役立つものがあるか期待していました。

つまり「相楽ふるさと塾」というネーミングがその期待を持たせていたのです。

しかし「ちょっと違ったかな？」と当初は感じていました。

だが回を重ねていくうち考えがかわってきました、何もガイドは歴史や文化財の紹介ばかりでは無いのでは、移動中の雑談の中では地元に関することや雑多な話題で盛り上がることもあり、この塾で学んだことは結構生かせるのではと。

これからのガイドのバックグラウンドの知識として活用していきたいと思いません。

提案「カンタータ木津川」木津川讃歌の製作について

木津川市 山田 紀正

この度「相楽ふるさと塾」を通して、相楽地域の実情を学ぶ機会を与えていただきました関係者の皆さんに、深く感謝を申し上げます。ありがとうございました。

40余年のサラリーマン生活を終え、その後の7年間に相楽地域を主として徒歩で見て回り、地方分権とは何か、住民自治とは何か、について考えてきました。

しかし、知らないことがあまりに多すぎ、なかなか考えはまとまらず、行動を起こすまでにはいたらなかった。そんな折、「相楽ふるさと塾」の開講を知り、もう一度、相楽地域の現状を学びなおすため、参加の申し込みをした。

全9回欠かさず受講して、さまざまな事柄を知ることができた。まさに目からウロコが落ちる体験であった。お世話くださった事務局の方々にお礼を申し上げます。

学んだ1例をあげると、バスで現地見学をさせていただいた。相楽西部地域では、開発が進み、人口が増え、都市化が進んでいる。一方、笠置町、和束町、南山城村の東部地域は、過疎化が人口の減少をもたらし、自然は豊かであるが、土地利用も思うにまかせず、限界集落化し、世の中から置き去りになりそうな感が否めないところもあった。

こうしたなかで、東部地域の人々がまじめに、勤勉に、懸命に自分たちの住

むところの活性化、発展を図るため、アイデアをこらし、汗を流されている、そうした姿に触れ、ある種の感動を覚えた。これらの方々をなんとか、励まし、支えることはできないか、西部地域も含めた相楽に住むもの、みなで考えていかなければならないと感じた。そのほかにも、関西文化学術研究都市のこと、木津中央地区の開発に関すること、木津川アートなどのイベントに関することなど興味深く学ぶことができた。こうしたことに関する考え方や意見は多くあるが、字数の制限もあり、ここでは割愛する。

この講座の修了に際し、以下のことを提案したい。それは、「カンタータ木津川」木津川讃歌の製作についてである。目的は、相楽地域の活性化に取り組む人々を広報面で支える。木津川流域の自然や人々の営みを日本全国の人々に知ってもらい、一度行ってみたいという気をおこさせるようなもの。京都府立山城郷土資料館の先生から聞いた万葉集のなかに、恭仁京を讃える歌があると教えていただいた。木津川を讃える抒情詩がほしい。

内容的にはイメージ、琵琶湖周航の歌のような、これから先100年、200年歌い継がれるようなレベルの高い詩歌で相楽地域の各箇所を歌いこんだもの、単なるご当地ソングではなく、日本中の人々が口ずさみ、小児から高齢者まで楽しく歌えるものが望ましい。琵琶湖周航の歌は、大正6年(1917年)小口太郎さんが作詩、一説には、1番が未知の世界への旅立ち、2番が青春、3番が不安と無限の可能性、4番がやすらぎ、5番が回顧、6番が極楽浄土を歌いこんだ詩歌といわれている。

かつて、わが国には、国民的財産といわれる秀逸な日本の歌が多数あった。このなかでは、100年たち、今日でも人々の間で歌われている歌がたくさんある。野口雨情、北原白秋、小口太郎、島崎藤村、西条八ナ、サトウハチロー等々が残した詩歌、また、旧制高等学校の寮歌や鉄道唱歌など、今日でもなお愛唱されているものも多くある。

悠久の木津川の流れ、その周辺に暮らす人々の営み、人情ふるさとの情景などの格調高い詩歌を求めたい。手法としては、各市町村の観光協会と相楽郡広域事務組合が母体となって、「木津川讃歌製作委員会」を結成し、行政関係、議会関係、大学関係、経済界、マスコミ関係などのほか、一般市民や学生も含めあらゆる階層の人々を巻き込んで、基金を設立して、寄付を募る。資金に一定の目途がたった段階で、詩歌を広く一般に公募を行う。ポスターや広報誌で周知を図るほか、インターネットのホームページやブログも活用する。さらに、マスコミ関係者にも宣伝を依頼する。

作詩大賞グランプリには、100万円程度の賞金贈呈を行いたい。賞金はある程度高額でないと、インパクトに欠ける。また、話題性も出てくる。以上詳細は、まだまだ多くあるが、概略、以上のような考え方で、今後何歳まで生き

られるか分からないが、一人一人賛同者を増やしながらか、「木津川讃歌」の製作に取り組んでいきたいと願っている。

相楽まちづくりのキーワードから考えたこと

木津川市 中川 晃

「相楽ふるさと塾」を受講して、決意所感文を書くにあたって、まちづくりについての資料等をいろいろと探してみたところ、日本まちづくり事典（平成22年6月20日発行、丸善）という書籍を見つけました。

この本は、常盤大学大学院人間科学研究科の教授である井上繁先生が日本列島各地のまちづくりの取り組みをそれぞれの市区町村に足を運んで実態を調べ、行政やNPOなどまちづくりの担い手と意見交換してまとめられたものです。

この本のなかに、京都府下の市町村別のまちづくりのキーワードについて、井上繁先生がそれぞれの自治体におけるまちづくりを考えるうえで、欠かせない言葉を著者の判断で選定されたもので、それぞれの地域でのまちづくりの取り組みについて詳しい内容を調べる際の手がかりになることを願ってまとめられたものです。そのなかに、相楽地域の市町村別のまちづくりのキーワードがのっていましたので、以下に紹介したいと思います。

木津川市 関西文化学術研究都市、企業誘致、子育て支援、ベッドタウン、コミュニティバス

笠置町 ハザードマップ（防災地図）、観光、カヌー、ハイキング、府立自然公園、笠置山、笠置寺

和束町 子育て支援センター、体験型観光、連合教育委員会、茶かぶき、宇治茶

精華町 関西文化学術研究都市、環境ネットワーク会議、企業誘致、農業オーナー、ITサポーター（情報教育）

南山城村 都市農村交流、やまなみホール、村づくり、コミュニティバス、茶園

これらのまちづくりのキーワードは、すべて、相楽地域のそれぞれの市町村の行政担当者の皆さんやNPOをはじめとする地域の各種団体の先輩の皆さんの知恵と力をいかして長年取り組んでこられた取り組みの成果として生まれてきたものであると考えます。

私の住んでいる木津川市においても木津川市のまちづくりのキーワードにつ

いて、いろいろ地域の実情にあてはめて考えていくと、なるほど5つのキーワードともすべて、木津川市におけるまちづくりの取り組みを進めていくにあたり、とても大切な言葉であることがわかりました。

この5つのキーワードから自分で活動に参加できる内容を選ぶとしたら、私は子育て支援というキーワードを選びたいと思います。

私は、木津川市のなかで、子育て支援についてのNPOの活動に参加したりして、地道にまちづくりの活動に取り組んでいきたいと思っています。

最後になりましたが、「相楽ふるさと塾」の企画運営にあたられました、相楽郡広域事務組合のすべての担当者の皆さんや講演を通じて、「身近な地域資源を活かしたまちづくり」についてわかりやすく教えていただいたすべての講師の先生方に感謝しています。ありがとうございました。

「相楽ふるさと塾」(第18期)を受講して

笠置町 二滝 久功

平成23年度の「相楽ふるさと塾」も2月4日第9回で修了を迎えました。生まれてこの方、ずっと笠置に住みながら、殆ど昼の活動の中心は町外で過ごして来、今は所謂「現役」を退き、生活の中心と成りつつある地元「笠置」・それを取り巻く「相楽」のことが少しでも解ればと思い、「ホンマに気軽な」気持ちで受講させていただきました。

塾の目的や事務局、受講生の皆様の目的意識の高さに戸惑いながらも修了を迎え、この塾で各地域のグループや行政の連携や精力的な取り組みも知り、受講できて本当に良かったと感じております。

我が故郷・笠置は、今失われつつあると言われる「絆」も、時には鬱陶しいと思う程であり、自然環境等「過ごす」には素晴らしい処だと思っています。

しかし、生活するには、「孫には同級生が居るのだろうか、小学生になる頃の児童数は」、「集落の戸数は、地域活動の継続は」、「医療」は...等々、生活基盤・日常生活等不安材料ばかりが際立っています。

暫くは地元自治会の仕事にも係ることになりますが、今、ここに住む私が・我々が・地域が、何を求めているのか、何が求められているのか、それに関わって何か出来るのか、しなければならぬのか、集落で、町で、そして相楽が連携し、生まれ育ったこの地が少しでも住みやすくなればと思っています。

故郷に帰り咲いて・・・

和束町 木崎 茂

今から45年ほど前「ふるさと和束」から離れ転々と移動しながら生存・・・気がつけば海の向こうから「ふるさと」を見ていた。そこは内戦で崩壊した国や南半球の小島で・・・おお！こわっ！！・・・ああ帰りたいなあ・・・和束川で釣りして茶畑で昼寝したいなあ・・・折れそうな心を癒やしてくれたのが「ふるさと」でした。

時が流れ、浦島太郎の亀と言う車に乗って「ふるさと」で職に就かせていただいています。お茶畑を眺めることのできるこの幸せ、その緑豊かで歴史ある町が諸問題で大変なことに直面していることをふるさと塾で相楽地域研修で体感しました。

相楽の「相」は、木に目を向け互いに見て調べることを意味する。また向かい合うことから、「互いに」「助ける」という意味を持っている。「楽」は、楽しむ、苦という文字が存在しないということですね。だから、相楽の未来、自然（木々(緑)）と歴史で共存し楽しく暮らせる。苦の無い世界＝相楽でみんなの町と人々や自然と群【郡】＝絆ですからみんなで地域興しを活性化しましょう。

塾は各行政のトップの方々や広報の最前線の方から地域ごとの情報をいただきました。

共有事項は多くあります。各行政では悪戦苦闘、暗中模索状態で必死でがんばられています。将来に向かう不安的要素、人口減少と高齢化への加速化の切なる訴えもありました。

雇用の創出へのゴールのない問題もありました。青年が出て行く、過疎化が止まらない、止めることができない、止めても雇用（仕事）がない、だから出て行く。

皆さんから地域の特性など味わいのある情報と行政、地域住民、その他多くの知識人の方々から情報や参考文献資料を多数いただきまして感謝しています。

塾の講座は和束町にとって参考事項となるし、じゃ和束はこうしようとか多くの実りある受講でした。

ここ相楽は広く、数回の研修では物足りないので、塾終了後は時間にとらわれず、ゆっくりと「じゃらん・じゃらん」を計画しています。

じゃらん・じゃらん＝インドネシア語で散策、散歩という意味です。

受講の縁をいただいた多くの担当者様には心よりお礼申し上げます。

「相楽ふるさと塾」に参加してみたの感想

精華町 市原 敦子

当初は、この地区とはなんだろうと、どう捉えたらいいのだろう等と思い巡らしていたのですが、個人的にどうこういうことではないなということに思い至り、むしろこうして住民が集まり、とりとめもなく、会話し、顔なじみになっていくことに意味があるのだと考えました。

地区の関係者の話を聞いていく中で、十分に考え、その地区、その地区で動けることから動こうとしておられる姿勢がみえたことです。和束町では、お茶の国際会議を開こうとしている人がいたり、笠置町では、テレビで取り上げられていて、ちょっとした家族の小旅行になりうるということが伝わってきました。木津川市においてもすでに動き始めておられます。

外へ向かって発信し続けていけば、定着につながっていくのでは、ただ、今現在住んでいる住民にとっては、どうなのか考えていくと、日々の暮らしはスムーズに運ばれているのかどうか。

人口増加地区はどうか。その真逆にある地区はどうなっているのか。このことを住民、古いも若きもともに話、認識をし、この相楽の地のキャパを知っておくことは損はないと思います。

そんなことを「相楽ふるさと塾」が担っていってくださったらと思います。

ほかの地域の方にとっては、うらやましいと思ってもらえるほどの地域の財産を持っています。

里山があり、川が流れており史跡があり、どのひとつをとっても発信していく核になりうるものがそろっているこの地区、学者さんや専門家だけでなく、住民こそがきちっと、手にしておくことが必要と思われるのです。

それがやたらと切り開くことでもなく、イベントものをもってくることでなく、今住んでいるひとたちで、十分にやりこなせるということにつなげて行く必要があるのではと思います。

それが心豊かな地域を保持していけるのではと思います。

そうやってふるさとを作り上げていきたいと思います。

これからもっと住民の参加が必要とされるだろうと関わっていくべきだろうと思われます。

「相楽ふるさと塾」についての反省事項

精華町 内野 敬吾

1 はじめに

精華町の広報誌「華創」をみて、この講座を申し込みました。過去、相楽郡広域事務組合の消費生活センター主催の講座に参加したことがあります。その時、「振込め詐欺」など身近なことについてお話があり非常に興味があって有意義な講義でした。今回も身近な興味のある講義と思って参加を申し込みました。しかし、地方自治に関する講義など堅苦しい話で、私が意図とする講義と異なるもので、がっかりしました。

2 受講生について

初日、受講生の紹介があり、各受講生も上手にお話をされました。この中で特に気が引かされたのは、明石国連大使とともに世界を股にかけ、国連の活動をされた方がいたことです。話も上手でユニークな人と感じました。

今回の受講生は、定員30名に対して20名でした。定員より10名も少ない。と言うことは、当塾に対して住民の関心が低いことと思います。もっと興味のある有意義な講義を設けるなど、一工夫が必要ではないかと感じました。

3 講義課題と講師について

座学の講義は、堅苦しく、高度な話で、私にとっては理解しにくく面白くなかった。その為、眠くてたまりませんでした。講義のやり方も画面を見て一方的に話をするのではなく、ゲーム的クイズ的要素を取り入れ、受講生も参加した講義をするなど工夫が必要である。

課題については、もっと身近な興味のある科目を取り入れたらどうかと思います。

例えば「年金と社会保障について」「円高と株・投資について」「防災について」等・・・。

一方、視察研修は非常に良かった。今まで、和束町、南山城村については殆ど知らない状況でした。視察研修で一部ではあるが知ることができたことは大きな成果であった。今後は、仏閣や文化財などを視察場所に取り入れられたら如何でしょうか。

「相楽ふるさと塾」開設計画が前回と殆ど同じである。また、講師も大半が同じである。私の勝手な考えと思いますが、第1期から第18期全て同じでしょうか。

主催者にとっては毎回同じであれば事務の進めもやり易いと思います。開設の

都度受講生が変わるため支障はないものと思いますが、第1期開設以来18年も経過しているため、内容について変更する必要があるのではないかと考えます。

4 おわりに

前回の受講生の活動報告書を拝見すると良い意見が殆どで、私は敢えて批判的なことを申し述べました。批判や反省がなければ改善も発展もありません。いろいろ失礼な意見を述べまして申し訳ないと思っています。

総体的には良かったと思います。特に良かった点は、視察研修です。相楽郡内の各市町村の一部ではあるが知ることが出来、有意義でありました。又、受講生と知りあい一緒に飲食しながら意見交換したことです。今後「相楽ふるさと塾」が益々発展することをお祈り申し上げます。

「相楽ふるさと塾」に参加して

精華町 和本 富雄

相楽ふるさと塾に参加した動機は、相楽エリアに生まれたにもかかわらず、相楽郡や精華町の現状や問題点についてあまり意識することなく、サラリーマン生活を送り、地元との接点を避けるような行動をとってきました。

しかし、退職したのを期に地元の人や人と人との接する機会を増やすべきではないかと思うようになったことです。

相楽ふるさと塾に参加して、相楽地域の現状、問題点、課題及び他の自治体の現状、村おこしに対する取組み等について、各方面の先生方にご指導いただき、大変参考になりました。

現在、社会問題となっている過疎化、少子高齢化、雇用、教育、核家族化、農業対策、エコ対策、TPP等いろいろと政治課題がある中で、和束町、笠置町、南山城村等を見学させていただき、村おこしに対する取組み等現場を見、現地の意見を聞くことにより、現状を肌で感じる事が出来ました。

これを百聞は一見に如かずと言うのでしょうか。

今後の取組みについては、塾としては、現状把握のみで終わり、今後の課題に対し、どのようにすべきか？については、各自で考えてください！との趣旨だと思います。

そこで、

*現状把握だけで終っていいのか！

*人と人との接する機会を増やし、問題意識を共有するにはどのようにすべきか！

との課題を持ちながら、いろんな角度で人と接する機会を増やし仲間といえる人を増やして行きたいと思います。

皆様ご協力よろしく願いいたします。

「相楽ふるさと塾」に学び思うこと

精華町 川西 澄恵

久しぶりの教授の講義、集中力が90分続かず、学んだことを復習すると誤字がいっぱい、簡単な漢字すら思い出せず、ひらがなで書くなど頭の老化を思い知り知ることから始まった塾でした。それでも回を重ねるごとにスラスラとまではいきませんが、何とかまとめたノートがとれるようになりました。

子育てのころは、緑いっぱいの交野で住み、週末ごと、お弁当やお菓子を作って「くろんど池」まで登って自然を満喫しました。20年前、光ファイバーを使った最先端のテレビ電話の実験、パナソニック中央研究所、住友金属研究所、ラボ棟、国立国会図書館等80m幅の広い道路、緑いっぱいにたたずむ景色に魅せられ、子供も大学生、大学院生になったのを機に前の家を手放し、光台に移り住むことになりました。今では、夫婦二人で散歩したり、写真を撮ったり、絵を描いたりして、春、夏、冬の学校の休みに来てくれる孫たちを待つ生活です。

孫たちと「きつづ光科学館ふおとん」、「けいはんな記念公園」の春の桜、秋の紅葉、和束町の川のある公園でのキャンプ、信楽の陶芸、奈良町、東大寺、美術館等一緒に行ける幸せを感じています。孫娘は高校生になったら、近くに楽しい所がいっぱい、渋滞に巻き込まれずに行けるのでおばあちゃんのところに来て、学校に行っていい？と元気が出るうれしいこと言う、小学5年生です。おばあちゃんも老いてはられません。

安全な地元の食材で健康に気をつけ、うす味の料理、さらに、孫に負けないようボケ防止のため英語のヒヤリングも始めました。

今年の夏は、笠置寺の正月堂、磨崖仏、千手窟、もみじ、恭仁京、和束で一番美しい茶畑が望める所（ここでは孫と茶畑の絵を描きたい）等わがもの顔にて、塾のコースをたどりたいと今からワクワクしております。

自然豊かな相楽地域の良さを再認識させていただいた「ふるさと塾」でした。

そうか！ おもいきり反応した言葉

精華町 清水 泰律

「精華町内だけでなく、相楽圏域の人々と文化のつながり、歴史とこれからの広がりそして地域の資源を活かしたまちづくりを学びたい」ということで受講した相楽ふるさと塾。精華町に住み20数年、よくあるパターンの仕事場と自宅の往復生活で、地域の事は何も知らずに過ごしてきました。定年後周りを見渡せば知らない所に、知らない人。これではだめだと身近なところでシルバー人材センターに登録し、出会ったのが「ふるさと案内人の会」。地域へのかかわりはここからがスタートでした。精華町ってどんなところ？何があるの？から始まりましたが、1年程の活動で少しは分かるようになり、相楽圏域の事も勉強をと思っていたところにこの塾生の募集を知り応募した次第です。

今回の講座での「観光社会学」は、私にとっては初めて聞く言葉でした。現代は観光の時、観光で町を盛り上げる、人を呼ぶ、という部分で今後も活動していこうと思っている私にとっては一番印象に残った講義でした。その中でも「光を当てる事で観光地になる」という言葉にはおもいきり反応しました。観光ってなんだろう？観光地ってなんだろう。観光地というのは有名なお寺や仏像があれば自然に観光地になるのか、そういう場合もあるが、それだけじゃない。「何の変哲もないような場所が、違うところからポンと光を当てることで観光地になる。」これが観光の面白いところであり、難しいところ。どうやって光をあてる？そこが難しいところ。「ちがう光を当てることで観光地になる」住民からしたら普段通っている道、何の変哲もない場所が観光地になる。こういった言葉がいつも私の頭の中をぐるぐる回っています。まずは小さな部分からですが、私がかかわっている部分での活動の指針となる言葉、考え方をみつけられたということで感謝しています。精華町を観光で盛り上げる、人を呼ぶ・・・、光を・・・、ちがうところから・・・、ちがう光をあてる・・・ぐるぐる回っています。

「相楽ふるさと塾」に参加して

精華町 野々上 康子

精華町光台に移り住んで20年が経とうとしています。当時は僅か数十軒の住宅が建つのみでしたが今は見違える街となりました。丘陵を大規模に切り開いて出来上がったこの街がそれだけの役割を果たすためにはどんな事をすれば良いのか、そして自分に何が出来るかを考えてみたいと思いふるさと塾に応募しました。

一番印象に残るのはやはり管内視察研修です。特に豊かな自然に恵まれている東部地域は今までも何度か訪れていますが、古寺や史跡を訪ね、美しい景色を眺め、美味しい物を食べて帰るといった通り一遍の訪問でしかありませんでした。今回のように現地の人達と触れ合う機会も殆どありませんでした。町長や職員の方々の熱い思いをひしひしと感じました。そしてその後に受けた講義で観光学というものがあり、日本各地で町興しの為いろいろな試みがなされていることを知りました。これらの事例がそっくり当てはまるとは思えませんが何がしかのヒントが隠されているのではないかと感じました。これからじっくりと考えたいと思います。

従来の集落と新興住宅地の住民は何かしら違うと思われがちですが思い過ごしだと思います。いくつかのボランティア活動に参加させて貰い交流をしてきましたが、生活状況や感覚は何も変わることはないと感じました。最初から壁を作ってしまうと同じ相楽地域の住民として何が出来るか一緒に考え、実行できるよう努力することが大切だと思います。

ふるさと塾を通して知り得た知識を身の回りの人達に伝え、一緒に訪ねるのが当面微力ながら自分に実行できることではないかと思っています。“ふるさと相楽”を知る大きな第一歩となりました。

ふるさと「相楽」を再認識と今後を思う

精華町 森元 茂

挨拶時「京都の精華町から来ました。森元です。・・・よろしく申し上げます。」と言いますが、相手方は京都の森元さんという方なのだなーとまでは伝わるの

ですが、精華町は京都の市内なのか北部なのか、はたまた南部なのか、さて、どちらからになるのか相手様にさっぱりわからずと言ったことで、理解していただくのに苦慮した経験がよくあり今度こそはしっかりと精華町を素早く理解していただけるようにと「関西学術都市の中核にある町」「閉館になった私のしごと館がある町」「山城一揆の行われた町」「京都市と奈良市の間」などを頭に入れこみ、今度こそ精華町を理解してもらおうと意気込んで行ったが、「関西学研?」「しごと館?」「山城一揆?」と全国的に知名度の低さには、内心ガッカリしました。

なぜ?「京都市内や奈良市内は知っている。」それは学校の日本史で習うとともに修学旅行等で来たことがあるからかな?しかし「宇治茶や一休さんは知っている。」のはなぜ?それはテレビでのアニメ放映や健康食品関係の宣伝からの認識ではないのかな?と思うと、もう少しこの山城地域を追求したくなり色々調べたり聞いたりすると、その昔この地域は日本の中心地である平城京や平安京といった都があった影響で人々が往来し物流が行き交いする要衝の地であったことから、何不自由しない生活がいとなわれて来たのであった。したがって、この地の知名度など上げる必要もなく、また、これといった歴史に残る人物もいないし、また裕福であったので現れる必要もなかったのではないかと思います。しかし、江戸時代の終りを告げる大政奉還(1867年)を発せられ京の都は東京に移り、要衝の地であったのがただの田舎の町といった風になってしまった。

しかも古都京都になって150年が経った今でも、昔の風土や地域性なのか危機感が薄いように思います。

今回、受講した塾の勉強を活かし、もっとこの地の文化や伝統また将来を見つめた地域づくりを地域みんなと再認識し、一人でも多くの人と今後の取り組みについてまい進して行かなければと思います。

なぜなら、生き残れない地域になってしまってからでは、なぜ?は通用しない!

「まちづくりとひとづくり」

精華町 矢嶋 美千代

ぜんそくで病弱だった幼少の頃、昭和43年に大阪から精華町へと引っ越してきました。

魚とり、れんげ摘み、里山の中での秘密の基地づくり・・・と自然の中で思いつき遊びすることで、ぜんそくは完治、真っ黒に日焼けしたおてんば娘になりました。

しかし、成人するにつれ、ふるさと精華町への興味も薄れ、町のことを何も知らない住民になってしまいました。とはいっても精華町のは大好き、相楽地区も大好き、でも相楽地区のことはおろか精華町のことすら、他人に説明したり紹介したりすることができません。「もっと相楽のことを知りたい」という思いから、ふるさと塾に参加しました。

私以外の受講者は、すでに何か活動されているような、経験豊かな方々が多いような気がしました。そして「まちづくりのために、何か学びとろう」と更なるステップとして今回の受講を位置づけておられるようでした。ゼロから第一歩を踏み出そうとする私とは大違いです。「おひとりおひとりと親しくなって、いろいろなことを教えてもらいたい」と感じる方ばかりでした。

私が、第18期相楽ふるさと塾で学んだことは「まちづくりはひとづくりからはじまる」ということです。今までどちらかという「まちづくりは行政機関やその道の専門家がおこなうもの」と思っていました。そして、住民はその大きな流れの中のほんの一部であって、ほとんどの人がその流れの中にすら身をおいていないのではないかと、思っていました。要するに私にとって「まちづくり」は他人事でした。

しかし、精華町を愛し、相楽地区を愛し「この地域を私たちが守り良くしていこう」と考える人がたくさんいなければ、「まちづくり」は成立しません。本当は住民全員がそう考えるべきなのでしょう。「住民は税金さえ納めていればよくて、あとは行政におまかせして、不満があれば文句をいう」という構図では、あまりにも悲しすぎます。ひとりでも多くの住民が「当事者意識」をもって「まちづくり」にかかわっていくべきだと思います。

そして「ひとづくりにはじまるまちづくり」は市町村という単位にとどまることなく、「相楽地区」という広域で連携して取り組んでいくことも、大切だと思います。行政機関の財政状況はどこも厳しく、相楽ふるさと塾の存続も危ぶまれる時期にきているのかもしれませんが、私達卒業生がまちづくりの原動力となる「ひと」へと育っていくことこそが、まさにこの塾の成果であると思います。そして私達が、行政機関やまちづくりを目指す全ての人とともに、「まちづくりのためのひとづくり」に取り組み、地域を愛しまちをつくる「ひと」を増やしていきたいと思っています。

「相楽ふるさと塾」を受講して

南山城村 池田 文夫

今回、村役場の知人から「相楽ふるさと塾」の受講を勧められ、高齢ではありますが地域において、若い人達への助言とか指導できる知識手法等が習得できれば「何か田舎地域のお役に、立てるかな」との思い受講した次第です。

受講した内容等については、「身近な地域資源を活かしたまちづくり」をテーマにいろんな参考となる貴重な講義を受けました。

中でも第3回の相楽地域内現地視察では、それぞれの位置づけ、地域の特性、地域格差等がハッキリと認識させられるものでした。以前は、相楽郡は、1つの市町村として合併をとの話しがありましたが、現在は木津川市を中心とした西部地区の関西学術研究都市の地域と東部3町村での農林産業を中心とした地域とに区分され、特に我々の住まいの地域においては、限界集落的な状況の中でのまちづくりは、深刻な問題であると認識せざるを得ません。

東部3町村では、深刻な財政状況と過疎化の中で、お互いに危機感を持ちながら連携した施策を行い、協力しながら生残りをかけて必死に努力している状況であります。

我々の暮らしている東部3町村で発行している「れんけい」と各独自の広報パンフで「身近な地域資源の情報」は、それぞれ共用しており、これらを活かす創意工夫を各市町村で地域の人々と一緒になって各種イベントなどで、活性化に向けた取組みを行っています。

現在村では、5年前から振興局、役場、地域が一緒になって「田舎暮らし体験プロジェクト」なるものを立上げ、3地区において「炭焼き、トマトづくり、大豆づくり、」のコースをそれぞれ地域の人々と一緒になって取り組んでいます。

私の地区では、農振地内の荒廃地を地区の人達と整備し、ソバ作り体験を、毎年京都府下で10人程度公募し、ソバ植えから、草取り、土掛け、刈取り、雑穀、ソバ打ちまで、地元の人々と一緒になって取組み、参加した人達と作り方、暮らし振りなどの交流を図り地域の風光明媚な環境と人情の厚い所に惚れ込み、地元の空家を買取り「田舎暮らししたい」人が増えるなど空き家対策としても成果をあげています。

村では荒廃した耕作放棄地が多く発生しており、高齢化に向けて、今後益々増加することが予想されることから、食料自給率確保の観点からも、今後地区で協同して耕作できる基盤整備が課題です。

一方、いま村では「村の活性化」の一環として国道163号のバイパス整備

の残土を利用して「道の駅」の設置を検討されていますが、地域の中には、企業会社で培われた知識、技術、技能等を持った「人」という資源を活用し、村民、行政、生産者、事業者が一緒になった事業計画の推進に向けた組織作りが、いま、最も重要な課題であると考えます。

このように今後の「村づくり」には、「今ある貴重な地域資源」を最大限活用出来るよう今回の「塾」で教わった「地域の観光・・・」「協働によるまちづくり・・・」「分かち合いのまちづくり・・・」等の講義内容を活かせるよう地域において、今の立場でいろんな人と係わりを持ちながら、機会があればいろんな取組みにチャレンジしたいと考えている所です。

なお、最後に、相楽広域行政に係わる皆様方にも、中央・西部地区だけではなく、「相楽は一つのまち」として、都市と農村という両端を併せ持った機能を活かした取組みを切にお願いするものであります。

「相楽ふるさと塾」に参加して思うこと

南山城村 岡崎 孝一

南山城村に住んで32年、地区の自治会創立段階から各種活動に積極的に携わってきた。しかし、当然ながら仕事中心の生活で、実際にはこの地区に住んでいたというだけで、村全体や相楽全体について、知る、見る、感じる、触れる、参画するというような行動を通じて理解するということがあまりできていなかったと認識している。今回この塾に参加して相楽全体のことや各市町村の状況など多くを理解できたことは大変良かった。特に視察研修は講義で聞くだけの勉強でなく、見て、感じることで理解しやすく良かった。

あらためてこの相楽地区は魅力と可能性が多くある地域だと感じた。

しかし、それぞれの地域毎に課題は違う。協働できることもあるかもしれないが、相楽の視点と地域の視点を両立させる取組みが必要になると思う。精華町や木津川市はインフラが整いこれからも発展していく可能性の高い地域だと思うが、笠置町、和束町、南山城村は生活基盤や経済に課題があり行政が頑張っているが、年々人口が減少し、過疎化が大きな問題になっている。

地域のインフラをできる限り整備し、安全・安心な住みやすい地域にして、相楽全体で地域をアピールできる体制が整うことが私の理想のふるさとだと思う。

少し前にテレビを見ていたら、奈良の十津川村の村おこしについて放送をしていた。十津川村が大変気に入った一人の女性が村おこしのアイデアを持ってきて住みつき、アマゴの養殖や食品作りなどに村民と協働で取り組んでいる姿や、村の青年団を中心に温泉の活性化（足湯作りなど）の取組みを放送していました。

地域活性化はこうした本当に地域が好きという気持ちと強い意志のある人が出ることにより、周囲が触発されて動き出すのだなと思いました。私達の地域にもこうした活動がないわけではありません。現在も特産品作りや観光地作りに取り組んでいる人達がいることを知っています。こうした活動が起点となり、村おこしの機運が盛り上がってくればと思っています。私はここ数年前からやっと地域の文化活動やスポーツ活動に参加して地域の人たちと交流できる時間をつくることできるようになってきました。

私としては、今自分から村おこしに積極的に取り組む自信はありませんが、今後の生活の中で必要とされる場面がくれば、私なりに仕事ができる可能性もあると考えています。

この塾で学んだことが将来何かで生かせることがあればと思っています。

相楽の将来の姿に見えてるもの

南山城村 徳谷 契次

平成23年度「相楽ふるさと塾」に参加させていただき、移り変わる相楽の様子を見せてもらいました。

約40年近くを西部の町で勤め、それも建設畑一筋であったことから学研の名も無い時に近鉄線、高の原駅の新設(1972年11月開業。駅舎は奈良県内。学研:奥田・懇談会の発足1978年9月)の時、近鉄のK助役が現地で監督業務をされており、概要を聞くなり今後における西部域での発展は目覚ましいものがあるものと其の時でも直感しました。

その後、学研の構想が出され、そして国の政策として位置付けがなされてからはその進展が図られ、大きく変貌し西部での今日の姿になっております。(勤め始めのころは、道路の渋滞は茶飯事で、小河川は洪水の度に氾濫し、住居ではしばしば浸水騒ぎ...)

都市化の事業を進める中で怒れる人、泣く人を多く見てきたが、喜びの人々を見る機会は少なかったように思えます。

一方、生れ、育ち、住のある南山城村の変化は少なく、大きな自然の基でゆったりとしており、この時期は40年前と同じく眼下に見える高山ダムの水は容量限りの水を蓄えております。

現在、地域で「田舎暮らし」を実施中であることから、塾の開催日と重なり、何度か塾の方を欠席させていただいたのですが、第8回での受講において滞在型の宿泊施設農園のことを興味深く話を聴かせてもらいました。

なぜならば、「田舎暮らし」に参加されている方の中でも短期滞在願望の方が何人かおられるのです。話のデータとも一致すると思われます。

ついでに、地域の遊休地と滞在型の宿泊施設とのコラボで、地域づくりが出来ないかを考え、行政と合同の視察を過日行政にお願いをしたところであります。視察の予定先は、「クラインガルテン普爾」です。

当分の間は空き家を活用し、宿泊施設の建設までいければ、当地は名阪国道より15～20分程度。大阪、名古屋方面から1時間半余りで来られます。

そして、地域の耕作放棄地が他府県の多くの人により甦ればと思います。自然の豊かさの中で、野菜などの作物を作る喜びは、人によっては代えがたいものがあるのではないのでしょうか。今まで見なかった笑顔が見えたらと思っております。塾に参加させていただき、ヒントをいただき感謝します。

活動概要

主催：相楽郡広域事務組合

日 程	研 修 内 容・講 師 等
平成 23 年 10 月 8 日 (土)	第 1 回・開講式：講演・オリエンテーション / 木津川市「相楽会館」 講 演：身近な「まちづくり」のススメ 講 師：京都府立大学准教授 宗田 好史 氏
10 月 22 日 (土)	第 2 回：地域研究 管内視察研修（東部地域） グリンティ和束「和束茶カフェ」（和束町）～茶畑風景（京都府景観資産登録地域）（和束町）～「笠置寺」（笠置町）～笠置いこいの館（笠置町）～高尾公民館（南山城村）
11 月 19 日 (土)	第 3 回：地域研究 管内視察研修（西部地域） 八木邸（木津川アート）（木津川市）～木津川市リサイクル研修ステーション（環境まつり）（木津川市）～けいはんな記念公園・水景園（精華町）～ふるさとミュージアム山城（特別展 木津川ものがたり）（木津川市）
12 月 3 日 (土)	第 4 回：講演・学研都市視察研修 / 木津川市「相楽会館」・現地 講演：「関西文化学術研究都市の近況」 講 師：（財）関西文化学術研究都市推進機構 事業推進部長 堀 高志 氏 講演：「ハーモニーシティ木津のまちづくり」 講 師：UR 都市機構 西日本支社 関西文化学術研究都市事業本部 事業計画第一課長 蛭川 喜康 氏 学研都市視察研修（精華・西木津地区、木津南地区、木津中央地区）
12 月 10 日 (土)	第 5 回：講演 / 木津川市「相楽会館」 講 演：「広域観光における地域の魅力創造」 講 師：奈良県立大学教授 遠藤 英樹 氏
12 月 17 日 (土)	第 6 回：講演 / 木津川市「相楽会館」 講 演：「協働によるまちづくり～その魅力と可能性」 講 師：ヒューマンスキル研究所 主宰 小室 邦夫 氏
平成 24 年 1 月 14 日 (土)	第 7 回：講演 / 木津川市「相楽会館」 講演：投資をかたる詐欺にご注意を 講 師：弁護士 加藤 進一郎 氏 講演：「消費者市民社会とまちづくり」～身近な地域資源を活かして～ 講 師：京都府消費生活安全センター 参事 野口 武彦 氏
1 月 21 日 (土)	第 8 回：講演 / 木津川市「相楽会館」 講 演：「分かち合い」のまちづくり - 部分最適から全体最適へ 講 師：奈良県立大学教授 麻生 憲一 氏
2 月 4 日 (土)	第 9 回・修了式：基調報告・受講生意見発表・修了証書授与 / 木津川市「相楽会館」 演 題：「国文祭で見てきたこと」 講 師：京都府文化環境部国民文化祭推進局副局長 青柳 良明 氏

開催状況



第1回 平成23年10月8日



第1回 平成23年10月8日



第2回 平成23年10月22日



第2回 平成23年10月22日



第3回 平成23年11月19日



第3回 平成23年11月19日



第4回 平成23年12月3日



第5回 平成23年12月10日



第6回 平成23年12月17日



第7回 平成24年1月14日



第8回 平成24年1月21日



第9回 平成24年2月4日

平成23年度 相楽ふるさと塾（第18期）開設計画

1 目的

「相楽ふるさと塾」は、平成4年度に「ふるさと市町村圏」の指定を受けたのを機に「人と文化の交差点・相楽」を具体化し、地域の担い手づくりを目指して平成6年度から開設してきました。

相楽圏域は、東部地域の農業の後継者育成や過疎問題、西部地域の人口急増による都市問題など多くの課題に直面しています。地方分権化や住民自治が叫ばれる今日、これらの諸問題を解決するためには住民と行政との連携がますます重要になっています。

第18期目を迎えます今年度は、「身近な地域資源を活かしたまちづくり」をテーマに研修を進めます。

2 テーマ

人と文化の交差点・相楽^{そららく} ～身近な地域資源を活かしたまちづくり～

3 開設時期等

平成23年10月から平成24年2月にかけて、全9回の開催とします。基本は土曜日の午後（1講座3時間）ですが、現地研修のみ1日となります。

4 開催プログラム

	開催日	内容	開催場所
開講式		開 講 式	
第1回	10月8日(土)	講 演：身近な「まちづくり」のススメ 講 師：京都府立大学准教授 宗田 好史 氏	相楽会館
第2回	10月22日(土)	管内視察研修（東部地域／笠置町・和束町・南山城村）	現 地
第3回	11月19日(土)	管内視察研修（西部地域／木津川市・精華町）	現 地
第4回	12月3日(土)	講演：関西文化学術研究都市の近況 講 師：(財)関西文化学術研究都市推進機構 事業推進部長 堀 高志 氏 講演：ハーモニーシティ木津のまちづくり 講 師：UR都市機構 西日本支社 関西文化学術研究都市事業本部 事業計画第一課長 蛭川 喜康 氏 現地視察研修（精華・西木津地区、木津南地区、木津中央地区）	相楽会館
第5回	12月10日(土)	講 演：広域観光における地域の魅力創造 講 師：奈良県立大学教授 遠藤 英樹 氏	相楽会館
第6回	12月17日(土)	講 演：協働によるまちづくり～その魅力と可能性 講 師：ヒューマンスキル研究所 主宰 小室 邦夫 氏	相楽会館
第7回	1月14日(土)	講演：「投資をかたる詐欺にご注意を」 講 師：弁護士 加藤 進一郎 氏 講演：「消費者市民社会とまちづくり」～身近な地域資源を活かして～ 講 師：京都府消費生活安全センター 参事 野口 武彦 氏	相楽会館
第8回	1月21日(土)	講 演：分かち合いのまちづくり - 部分最適から全体最適へ 講 師：奈良県立大学教授 麻生 憲一 氏	相楽会館
第9回	2月4日(土)	意見発表（一年間を振り返って） 基調報告 講 演：「国文祭で見えてきたこと」 講 師：京都府文化環境部国民文化祭推進局副局長 青柳 良明 氏	相楽会館
修了式		修 了 式	

開催時間については、午後1時30分～午後4時30分（視察研修を除く。）

日時、場所、内容などは、都合により変更となることがあります。

5 受講対象者

原則として、相楽圏域（木津川市及び相楽郡）に在住・在勤する満18歳以上で、相楽地域のまちづくりに関心を持っている方。ただし、平成22年度「相楽ふるさと塾」を受講した方は、ご遠慮ください。

6 定 員 30人

7 申し込み・問い合わせ先

まずは、各市町村担当窓口・相楽郡広域事務組合事務局にお問い合わせください。基本は先着順にしますが、市町村に極端な偏りがでないよう調整させていただくことがありますので、ご了承ください。

（相楽郡広域事務組合ホームページ上からも申込書をダウンロードできます。）

〔締め切り：8月26日（金）〕

市 町 村 名	担 当 課	電 話 番 号
木 津 川 市	学研企画課	(0774)75-1201
笠 置 町	企画観光課	(0743)95-2301
和 束 町	地域力推進課	(0774)78-3001
精 華 町	企画調整課	(0774)95-1900
南 山 城 村	総 務 課	(0743)93-0102
相 楽 郡 広 域 事 務 組 合	事 務 局	(0774)72-0421

8 受講者の決定

9月5日（月）までに決定し、申込者ご本人に連絡させていただきます。

9 参加費

参加受講料は無料。（ただし、資料代として2,000円を徴収させていただきます。その他に、現地研修の場合、施設や寺院等の拝観料、食事代などは自己負担となります。）

10 その他

全9回のうち原則として6回以上の出席がない場合は修了証書の交付は認められません。

【主 催】 相楽郡広域事務組合

平成23年度 相楽ふるさと塾修了生名簿

相楽郡広域事務組合

	市町村名	氏 名	性別	住 所	備 考
1	木津川市	いばらき もとはる 茨木 基晴	男	相楽	
2		げんば すすむ 玄番 進	男	州見台	
3		やまだ としまさ 山田 紀正	男	相楽	
4		やまだ やそじ 山田八十二	男	州見台	
5		なかがわ あきら 中川 晃	男	加茂町大野	
6	笠置町	に たき ひさのり 二滝 久功	男	有市	
7	和束町	きざき しげる 木崎 茂	男	宇治市	和束町嘱託職員
8	精 華 町	いちばら あつこ 市原 敦子	女	光台	
9		うちの けいご 内野 敬吾	男	光台	
10		かずもと とみお 和本 富雄	男	山田	
11		かわにし すみえ 川西 澄恵	女	光台	
12		しみず やすのり 清水 泰律	男	菱田	
13		の の う え や す こ 野々上康子	女	光台	
14		もりもと しげる 森元 茂	男	植田	
15		やじま みちよ 矢嶋美千代	女	下粕	
16	南山城村	いけだ ふみお 池田 文夫	男	北大河原	
17		おかざき こういち 岡崎 孝一	男	北大河原	
18		とくだに けいじ 徳谷 契次	男	高尾	

再受講者

平成23年度
「相楽ふるさと塾」活動報告書

発行日 平成24年2月29日
発行 相楽郡広域事務組合
〒619-0214
京都府木津川市木津上戸15
相楽会館内
TEL 0774(72)0421
FAX 0774(72)0470
E-mail kouiki@souraku-kyoto.or.jp

誤字・脱字等につきましては予めご容赦ください。

みんなで作る
人と文化の交差点
相楽

